

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272501453		
法人名	有限会社 新堂企画		
事業所名	グループホーム ひまわり苑上北		
所在地	〒039-2402 青森県上北郡東北町大字大浦字菅林116番地1		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひまわり苑上北では基本理念を、「社会福祉の基本が人間愛であること、地域社会への貢献であることを信念とし、心地よい環境の中で、安心して、健全な生活ができるように、誠意と思いやりをもって、献身的に努力することを誓う」とし、入居者様の生活を支援しています。入居者様やご家族様が抱える不安や悩み、悲しみ等思いを共感し支えていけるよう日々学び、より良いサービスの提供に努めます。また、地域とのつながりを大切にし、交流の場を多く設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

近隣には畑が多く、近所の方々の野菜など差し入れがあり普段の食事のメニューにも取り入れている。事業所で行われるイベント、夜間想定避難訓練の案内を町内の回覧板にて回覧している。避難訓練では、地域の参加もあり、避難誘導したりと地域の協力体勢が出来ている。毎日病院受診の付き添いがあり、外出希望の際は、外出計画を立てながら工夫して支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに基本理念についての研修を実施している。職員全員で作成した独自の理念となっており、日々確認し、理念に基づいたサービスを意識している。また、職員は身分証の裏面に理念を携帯し常に確認している。朝礼時、理念・内観を確認している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を職員と話し合いをして、思いやりを持ち接するという理念を共有し、朝礼で復唱している。各自のネームプレートの裏に理念を記載していることで、日々のケアの振り返りができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゲートボール大会や芋煮会などの施設行事や、地域行事への参加、保育園との交流、近所への散歩など一年を通し交流している。町内の清掃活動や環境美化活動への参加等、地域の中で入居者様と共に会社全体で活動している。	事業所のクリスマス会などに保育園の園児が訪問に来ている。また、町内でのゴミ拾いの清掃活動に参加している他、花植えを地域や職員、利用者と一緒にやっている。町内のゲートボール大会も見学に行くなどして、そのあとの食事会なども楽しんで地域の方との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ひまわりカフェ」を月一回程度開催し、認知症予防や体力作り、健康相談を行い、認知症への理解、支援について相談する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者様の様子や活動等について、相談や意見を頂くなどし、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回行っている。民生委員・町内会副会長・利用者代表・役場担当者が参加されている。運営推進会議では、利用者の日々の様子をスライドにて紹介している。災害は、火災だけでなく、水害での災害対策の提案もありサービスの向上にも反映できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大きい行事や運営推進会議には参加して頂けるよう働きかけている。サービスについての相談や状況報告など連絡を密にしている。	運営推進会議には、町役場の方の参加もある。日頃から、利用者の困難事例などのケースも含め相談できる協力体勢となっている。月1回地域ケア会議があり行政との情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを基本として、入居者様の状況に応じて安全が保たれるよう工夫している。身体拘束排除委員会が毎月、身体拘束の有無の確認と、職員への自己チェックを実施しケアに取り組んでいる。玄関の施錠は入居者様の安全を配慮し、やむを得ず行っている。	日中は玄関のカギは施錠せず、外から自由に入る事ができ、中からはボタンを押して外へ行くことができ、夜は21時から5時まで施錠している。身体拘束排除委員会が、管理者・主任とで構成され毎月1回自己チェック表を職員に提出して頂き、日々の振り返りを行い身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修を通じて学びの機会を設け理解を深めている。スタッフのストレスにも気を配り、声を掛け合い虐待防止に努めている。上記の職員への自己チェックでもケアの振り返りや虐待につながる行為について認識できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修を通じて学びの機会を設け、理解を深めている。ご本人様の状況に応じてご家族様や行政と相談し支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の理念、ケア方針等、入居前にご本人様、ご家族様に説明し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様が意見・要望等話しやすい雰囲気作りに努めている。保険者の介護相談員来苑時には、意見や助言を頂き、サービス向上に努めている。	家族の面会時などに意見や要望が出やすいように選択式などの工夫をして聞き取りをしている。その中で「買い物や安いところで購入できないか」などの意見もあり、毎月1回介護相談員が来所され利用者からの意見を聞いたりして運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング・カンファレンスにてスタッフが意見を出しやすい雰囲気作りを心掛けている。働きやすい環境作りを目指している。	普段の業務の中でも職員と管理者のコミュニケーションの中から意見や要望を傾聴して、職員からの意見を出しやすいように工夫し、施設長へ報告し働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ各自が自己目標の設定を行い、それに基づき面接を実施し、向上心を持てる職場環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者研修の開催、研修委員会を中心とした内部研修を毎月実施し、全スタッフが学ぶ機会を設けている。また、スタッフの希望や経験に見合った外部研修への参加を行い、知識と技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東北町の地域密着型連絡会へ参加し、事業所間の交流や意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、ご本人様の立場で意向を伺い、不安や要望等の聞き取り、思いを傾聴し受け止めるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、ご家族様の立場で意向を伺い、不安や要望等の聞き取り、思いを傾聴し受け止めるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際は必ずスタッフ2人以上で対応し、ご本人様とご家族様の意向を伺い、必要なサービスが的確に受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者様を人生の先輩として尊敬し、生活の中での知恵や経験などを学び、施設の中で役割を持って頂き、ご本人様のできない部分をスタッフが補い、支え合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会、行事等ご家族様がご本人様と関わる機会を多く持てるよう働きかけをしている。また、スタッフも面会や行事等を通じてご家族様との関わりを多く持ち、入居者様の生活状況の共有、意見、要望等を伺い、互いに支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所について理解を深め、外出等の機会を設け、関わりが途切れないよう努めている。	本人が昔ながらの行きつけの美容院や衣服店・病院など、馴染みの関係が途切れないように支援している。事業所にも昔の知人などの訪問もあり馴染みの関係性の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様の人間関係を把握し、孤立しないよう配慮し支援している。空間、環境作り、調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で会話や表情の中からお本人様の意向、希望の把握に努めている。	日常生活の会話から本人の思いや希望を直接聞いている。困難な場合には、家族からの情報を集めたり、会話の中や表情、行動などで本人の思いを汲み取り、本人の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様より聞き取りを行い、情報収集し把握に努めている。また、ミーティング時情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝、夕の申し送りをA・B棟合同で行い、個々の状態の把握に努めている。月1回ミーティング・カンファレンスを行い、状態の確認、課題検討、試案を行い総合的に把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の状況について、ご本人様、ご家族様、スタッフで話し合い、様々な意見や情報をもとに試案を行い介護計画を作成し、カンファレンスにて評価、見直しを行っている。	利用者の担当者がモニタリングを行い、月1回のミーティングやカンファレンスで、本人・家族の意向も踏まえたものを職員同士で情報共有し、管理者が介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿い、個々にケース記録を行い、計画見直しの際には活かすようにしている。また、生活日誌にて一日ごとの入居者様の状況が一目でわかるようにし、スタッフの情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時に適切な介護サービスを受けられるよう体制を整え、グループホームと小規模多機能で情報を共有し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や避難訓練の際には地域住民からの協力を得ながらつながりを大切にし、情報の共有を図っている。町内行事にも参加し、協力を得やすい体制作りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の意向により、かかりつけ医を選定している。スタッフとご家族様が協力し受診支援を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人が昔から受診していた病院を継続できるように支援しており、定期受診は職員で対応している。検査が必要な時や受診結果を確認する際には、家族の協力のもと現地で待ち合わせて受診結果などを一緒に聞いている。事業所への往診はないが、適切な医療が受けられるよう病院との連絡体制は出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の事業所に配置されている看護師に相談、助言、応援が受けられるようになっている。看護師の配置がないため異常の早期発見に努め、日頃より主治医と連絡を密にとり適切な医療が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会にて入居者様の気持ちや健康状態の把握に努めている。また、ご家族様、病院との連絡を密にし、退院に向けての相談、情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、見取りに関する指針あり、終末期の対応についてかかりつけ医の意見を基にご家族様、ご本人様と話し合い、方針を決め支援している。	入居時の契約の時に看取りについて説明している。終末期に向けた取り組みは、かかりつけ医・家族・事業所で話し合いをしながら検討してチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを設置し、内部研修にて学ぶ機会を設けている。定期的に避難訓練を実施し、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施時、地域住民の方々にも参加して頂き、災害時に備えている。防災に関する自己チェック表を作成し、定期的に点検している。	夜間想定避難訓練を1年に2回実施している。そのうちの1回は消防立会いのもと行い、地域住民の避難誘導をしたりと協力体制が出来ている。発電機、備蓄(米・水)などを常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録、入浴、排泄等は特に羞恥心に配慮し対応している。個人情報人目につかない所で保管している。	排泄の前後の声かけや声の大きさなど、プライバシーを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の意思決定は入居者様が行い、意思を尊重し希望、要望に応じてスタッフが支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様個々のペースに合わせ、柔軟な対応を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に応じて、理美容室へ個別対応している。意思表示や希望のない方には、スタッフが選択肢を促し、ご本人様に決定して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の好みを把握し、季節や行事食を取り入れ、美味しく、楽しむ食事作りを取り組んでいる。茶碗拭き、下ごしらえ等できることは一緒に行っている。	利用者と職員と一緒に食事の下ごしらえや茶碗を拭いたりしている。月に1回のお好み会があり、ホットケーキや手作り団子の作り方を利用者から学ぶ機会もあり、食事を楽しむ事の支援ができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態により主治医と相談し、個々に必要な栄養、水分管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、必要により介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、誘導、介助している。	排泄パターンを把握する為、個々の排泄表があり、トイレでの排泄に向けた自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態を把握し、食事、水分、運動にて排便を促すケアを行っている。必要に応じ主治医へ相談し、内服薬により調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	計画的に週2回以上入浴して頂いている。毎回個々の希望を確認し、ご本人様のペースや希望を優先し対応している。	週に2回入浴があり、個々の入浴したい時間帯や曜日に合わせて入浴を楽しめる支援が出来ている。体調を崩して入浴が困難な場合においても、清拭を行い清潔保持に努めている。入浴も同性支援ができるように工夫しながら行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンの把握をし、寝具や照明、音等に配慮し対応している。不眠の方には原因の追求、試案し、必要に応じ主治医へ相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更時は申し送り時確認、また、ミーティング時も再度周知し、情報共有している。症状等変化がある場合はすぐに主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の嗜好や趣味、生活歴に沿った役割り、楽しみを促す支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所を散歩したり、畑の野菜の収穫、道路のゴミ拾いなど戸外に出て気分転換を図っていただいている。外出希望時は意向に沿うよう支援している。	日常的に病院受診の付き添いが多く、突発的な外出支援は、困難な時もあるが、外出希望のある時には、日程の計画を立て出かけられるように支援を行っている。近所の散歩は、毎日出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態により紛失等も考慮し、できる範囲内の金銭管理を行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて施設内の電話でご家族様との連絡や談話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感とり入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや照明などの調整や空間作りを行っている。季節ごとに装飾の模様替えを行い、四季を感じられるよう工夫している。	利用者が季節に合った装飾を職員と作り、廊下や食堂に飾っている。床暖やエアコンを設置し、各部屋にタオルを掛けるなどして、温度・湿度を管理されている。食堂にソファがあり、いつでも休める工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に合わせて気の合う入居者様同士で過ごせるよう、ソファを設置しスペース作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものがある場合は持参して頂くよう働きかけている。	家族の写真など部屋に飾り、本人が安心して心地よい生活ができるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等わかりやすく表示し、認識できるよう工夫している。ご本人様の状態に合わせ、ベッド、畳、ポータブルトイレの設置等を行い対応している。		